都道府県別賞一等

「今」を守るために

富山県　富山市立八尾中学校　三学年　倉　静菜

私は、将来について考えるのが嫌いだった。理由は一つ。ずっと、「今のまま」が良いからだ。私は、昔から、自分の過去も未来も含めて「今」が一番楽しいと信じて生きてきた。それゆえに、変化を怖がり、「今のまま」を望んできたのだ。将来のことはあまり考えたくはなく、目を逸らし続け、このまま時が止まればどんなに幸せだろうと考えたことも何度かあった。生命保険も私にとってはその内の一つで、もし、何かがあって「今のまま」ではなくなってしまったら、と考えるだけでも嫌だった。もともと、この作文コンクールに対しても保険に対してもあまり興味はなかったが、この作文コンクールについて知った両親から、保険は大切なことなんだよと言われて、少し興味が湧き、保険について知ってみることにした。そして、実際に保険について知っていくと、自分の将来について考えないことは、大きな間違いであると気付いた。

私は保険についての知識が全く無かったので、とりあえず母から保険に関する話を聞いてみた。私は、生まれてすぐに保険に入っていたらしい。病院で受診した時、医療費が無料になっていたので、富山では子どもの医療費が無料になることや、自治体によって違いはあるが、日本ではすべての都道府県で子どもの医療費を助成する制度が実施されているということは知っていた。なので、少なくとも未就学児のうちは保険に入っていなくても困らないのではないかと、驚きとともに疑問が生じた。母が私をすぐ保険に入らせたのには、母の友人の実体験に基づいた助言があったからだった。

その友人の子どもは、生まれてすぐにガンが見つかったそうだ。当時は、母の友人も私と同じく、すぐに保険に入らなくてもいいと考えていたが、自身の子どもの病気のことが分かり、保険に入ることが難しくなったことで、その間違いに気付いたという。いつ完治するのか分からないという心配や、保険に入れないまま医療費の助成が受けられなくなってしまったらという将来への不安が、自分と同じような思いをする人を少しでも減らしたいという思いになり、母にもこの話を伝えたらしい。

私は今までそのような病気や大きなケガをしたことがなく、健康に育ってきたが、それは、両親が温かく私の成長を見守ってくれているからで、両親が安心して見守ることができるのは、保険のおかげだった。保険について考えるのに、早すぎるなんてことはない。「今のまま」を望むあまり自分自身の将来からも目を

背けていたが、これからも変わらず「今のまま」を望んでいたいのなら、目を背けず、将来の不安やリスクを減らすことが大切なんだと気付くことができた。

保険は、「今」が崩れてしまった時、そこから立ち直って、また「今」を取り戻す、作り直す手助けをしてくれるものなのだ。実際、私の父が大きなケガをした時も、保険のおかげで安心して長期間治療に専念することができた。

もしものことがあっても、また前向きになれるように、支えてくれていた。私が望む「今のまま」を作っているのは、保険なのかもしれない。